

文芸

俳句

鳥帰る風がさそいし空の道

池田 逸子

春愁や振子動かぬ掛時計

伊藤 敬子

生真面目な人に戯言四月馬鹿

伊藤 定男

空風に舞ひ去る土手や桜惜しむ

今関満喜子

停まるも流れもままよ花筏

魚地 照子

捨て仔猫立ち去りかねし夕べかな

江森 悦子

騙すより騙されやすい四月馬鹿

大谷 武彦

風光る表札新た旧漢字

川島 孝夫

四月馬鹿農には通せず生きにけり

川島 通則

子の祭つ日手を振るような花辛夷

向後 寛

嘘を言い笑い飛ばして四月馬鹿

越川 福子

古池や影を映してゆるる春

小松 藤男

風の中土の匂ひの耕運機

佐瀬 輝夫

青き踏むゲートボールの人集ふ

宍倉 道子

春ひと日能樂堂の笛透る

鈴木とし子

摘草や小さき幸せ噛みしめて

玉虫 栗扇

春の野辺人それそれに動きをり

土屋美枝子

春田打つ男一人や風の中

土屋 義昭

蛤搔く足裏に答ありにけり

戸村 静華

四月馬鹿メール送る落ちつかず

西崎さち子

手を上げてあいさつかわし山笑ふ

早川 勇

短歌

冬五輪競技レベルの高さには

練習努力の凄さ浮かびぬ

鈴木 益郎

日溜りの小草つまめば指肌に

触れてやわらか春の黒土

土屋 好

今年また葡萄の成長見守りつ

老いて二人で暮らせるしあわせ

高梨 キヨ

.....

自販機はコトリと音たて商へど

返却口のつり銭言はず

佐瀬 初音

杉山にこぶし一樹の白き花

里に明るく春を告げあつ

吉岡 信子

旅先で求めし土鈴振るたびに

過ぎし思ひ出浮かび来るなり

との曇る朝辛夷の花は

文結ぶがにさ揺ぎみたり

水張田に映りし月の影揺れて

戸外は風の吹きてるらし

午後より覚めたる幼き女の孫は

辺り見回しふいに泣くなり

妙樂寺の本堂めざす男坂

登りてまずは息を整ふ

今日の夫のみ墓へ娘等は行き

病後の吾のみ家に残りぬ

面白さ知りて買ひたるパズルの本

夢中になりて時を忘れつ

春来ればしたれ柳も知らぬ間に

芽を吹きはやも青み初めたり

朝青龍辞めたる後の白鵬は

圧倒的に全勝果す

真夜中に降りつぐ雪の静かなる

音を聞きあつ眠れぬままに

病み重き弟の枕辺に吊さむと

折りゆく鶴の翔ぶかまへなす

島田ますみ

池田 春江

真夜中に降りつぐ雪の静かなる

音を聞きあつ眠れぬままに

病み重き弟の枕辺に吊さむと

折りゆく鶴の翔ぶかまへなす

島田ますみ

池田 春江

病み重き弟の枕辺に吊さむと

折りゆく鶴の翔ぶかまへなす

島田ますみ

池田 春江

こうほう 博物館 26

新緑の中の白い妖精

平成五年から九年まで発掘

調査された篠本城跡の中で、

木々が生い茂る初夏の地面で

見つけたのが、写真の花です。

背丈一〇センチに満たず、一

輪一センチ足らずの花が四、

五輪、房となって咲いていま

す。よく見なければ、見過ご

し気がつかなければ踏んでし

まいそうな小さな花で、それ

だけに真つ白の花は可憐に思

えます。

この花はギンランと呼ばれ

る、ラン科の山野草の一種で

す。ギンランといえはキンラ

ンがあります。キンランは黄

色くもつと草丈の高い花で、

ギンランとは異なって日当た

りのいい所に咲く花です。こ

のキンランと同じところに、

白い色の似たような草形で咲

いているのがササバギンラン

です。ササバギンランはさら

に草形が大きく、草丈が五十

センチに及ぶものがあり、こ

の仲間では最も大きく目立つ

ものです。

これらキンラン・ギンラン・

ササバギンランはラン科の中

でも同じ仲間、身近な山野

で多く見ることができですが、

ラン科の植物は、ラン菌と呼

ばれる共生菌と生活している

ことが、最近の研究で分か

りました。特にギンランの根は

こん棒状になっていて菌との

共生関係が強く、生えている

地面の環境に大きく依存して

いるといわれ、人の手で栽培

することはほとんど不可能な

花であることで知られていま

す。もし山でこれらの花を見

かけたら、そつと愛でるだけ

にしてあげましょう。



白い妖精のような“ギンラン”